



### ほっかいどうピース・トレードのプレミアムで「困ったときはお互い様」の緊急支援 コカマウは組合の全616世帯にお米を配布しました

東ティモールでは、例年6月初旬に始まっているコーヒーの収穫期ですが、雨季が長引き、7月末になっても収穫が始まっていません。現金収入が絶たれた状態です。コカマウ（マウベシ郡コーヒー生産者共同組合）では、ほっかいどうピース・トレードのプレミアムのこれまでの残高3820ドルで、社会活動として組合の全世帯にお米を提供したいということになりました。616世帯なので1世帯10キロ程度です。

2020年7月28日、マウベシ郡長も参加し、セレモニーが行われました。国営テレビが取材に来て、全国放送されたそうです。

2007年の大不作年に始まったほっかいどうピース・トレードのプレミアム（北海道米とマウベシ珈琲の売り上げを還元）ですが、ささやかでも「継続は力」だと思いました。なお、コロナ禍ですが、パルシクの尽力で、今年もプレミアム1000ドルをコカマウに届けることができました。



コカマウ倉庫前の贈呈式 郡長(左)からお米が手渡される

### フェアトレードフェスタさっぽろ2020はオンラインで開催されました

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、毎年6月に札幌大通公園で開催されてきたフェアフェスも、6月27日、28日にオンラインでの開催となりました。

ほっかいどうピース・トレードでは、第一日目の「パンデミックの中のフェアトレード——新型コロナが世界中に広がる中で、フェアトレード生産者はどうしているのでしょうか」に参加し、東ティモールから届いた動画を上映して、報告を行いました。パルシク東ティモール事務所コーヒー事業リーダー・ネルソンさんのインタビュー（伊藤淳子さん撮影通訳）では、①今年のコカマウのコーヒーは全体的に収量が減る予想、②コロナは早期対応で現在感染者はいない、③16グループでコーヒーの木の改良を行っているなどの報告があり、「北海道のコロナの終息を神様に祈っています」というお見舞いの言葉で結ばれていました。

その他の発表者と国などは以下の通りです。

萱野智篤さん（フェアトレード北海道）：動画で、ネパールとバングラディッシュの生産者の状況を紹介。ロックダウンで通常の生産体制がとれず、市場での販売もできなくなっている。

山島みほさん（ベトナムエシカルブランド・JV STYLE）：ベトナムの手工芸品の生産者のメッセージ動画を上映。早期のロックダウンで感染は抑えられているが、経済的には厳しい状況である。

長崎昭子さん（第三世界ショップ）：スリランカの「カレーの壺」生産者のメッセージ動画を紹介。ロックダウンで働けなくなった貧困世帯に野菜を配布し、従業員への支援も行い、地道に製造を続けている。

寺田俊さん（APLA）：フィリピンネグロス島のバナナ生産者からの動画で報告。外出禁止など厳しい政策が実施され、生産物を街に売りに行けなくなり、農家への影響は大きかった。続いて、インドネシア・パプア州のチョコレート生産者の動画を上映。コロナ禍でも、カフェを営業し、チョコアイスクリームの売り上げで、市場の女性にマスクと石鹸を配っている。

中原由利子さん（フェアフェス実行委員長）：「みんなる」の店頭でネグロスバナナを販売しながらの報告。札幌では30年もネグロスバナナの販売が続いている。

東由佳子さん（これからやの立場で参加）：カレーの壺やKAKAO KITA PAPUAのチョコレートなどの評判やおいしさについて。

紙幅の関係で詳細を報告できませんでしたが、YOUTUBEで視聴できます。約1時間です。ぜひご覧ください。（まとめと文責・荒井）

<https://youtu.be/hzXUjKTVRu8>

